

## 授業概要

私たちが日常行っている音声によるコミュニケーションの仕組みを調べてみることは大変興味深いことである。音声はどのようにしてつくられ、伝わり、聞き取られるのだろうか。音声そのものとは一体何だろうか。この点を出発点にして英語という言語を通して体系的に音声を考察することがこの講義の目的である。

この講義では、音声学の理論を学習するだけでなく、実際に英語の個々の音が発音できるように調音に関する知識を深める。

## 授業計画

第 1 回	イントロダクション：授業の概要、成績の評価方法などの説明
第 2 回	標準米国発音と標準英国発音：音声器官、発声のメカニズム
第 3 回	一般的な母音の分類、基本母音、IPA（国際音標文字）
第 4 回	英語の母音（1）：強母音/弱母音、緊張母音/弛緩母音；短母音
第 5 回	英語の母音（2）：長母音、二重母音、三重母音；弱母音、半弱母音
第 6 回	一般的な子音の分類 & 小テスト（母音の分類に関する筆記試験）
第 7 回	英語の子音（1）：閉鎖音、摩擦音、破裂音
第 8 回	英語の子音（2）：鼻音、側音、半母音
第 9 回	音節（1）：音節主音、音節主音の子音
第 10 回	音節（2）：子音の結合、音の脱落
第 11 回	音節（3）：同化など & 小テスト（子音の分類に関する筆記試験）
第 12 回	アクセント：語アクセントから文アクセントまで、強形と弱形
第 13 回	リズム：等時性、アクセントの移動
第 14 回	音調群、音調核、下降調と上昇調
第 15 回	イントネーション（1）：特殊なイントネーションなど
第 16 回	定期試験（筆記試験）

## 到達目標

- 英語の音声を理論的に理解できる。
- 英語の個々の音を適切に発音するための調音の知識を得ることができる。

## 履修上の注意

この講義で扱うのは音声であるため当然ながら英語が苦手な方も受講できる。音声に興味がある方ならば受講を歓迎する。テキスト、プリント等は日本語で書かれたものを使用する。

## 予習・復習

配布するプリントには單元ごとに理解度をはかるチェック・ポイントを載せている。これを参考に毎回授業前にテキストを読んで授業の内容をあらかじめ理解していただきたい。授業後は、もう一度テキストを読んで、チェック・ポイントを解いて授業の復習をすること。予習、復習ともに音声を聴いて発音を何度も行っていただきたい。新しい概念、専門用語がよく出てくるため、それらを理解し、吸収するために予習・復習は毎回行うこと。

## 評価方法

小テスト（2回）（30%）と定期試験（70%）の結果で評価する。試験の問題は、授業中に受講者に配布するプリントにあらかじめ提示した問題の中から出題する。詳細については初回の授業で説明する。

## テキスト

- 教科書名：『新装版 英語音声学入門』
- 著者名：竹林滋・斎藤弘子
- 出版社名：大修館書店
- 出版年（ISBN）：2008年（978-4-469-24530-1）